

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	2 月	4 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	豊浦寺跡(とゆらでらあと)				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1977年(昭和52)3月22日				
所在地	高市郡明日香村豊浦630番地				
所有者 管理者	向原寺(こうげんじ)				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り				
公開	向原寺の敷地内にあり事前に見学の旨を連絡				
保存状態	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(発掘された遺構の一部が当時のまま見ることができる)				
当面の課題	向原寺の庫裏の建て替えが昭和60年に行われた際、地下埋蔵物の地質調査に対し住職夫妻が全面協力しその結果、豊浦寺の寺院の建物跡が発見された。現在は、一部であるが当時の豊浦寺の敷石及び柱の跡が見ることができる状態で保存され誰でも見学できる。屋根も付けられ雨風にも影響が受けないようにして保存されている。				
今後の課題	庫裏の建て替えに伴い地質調査で発見された豊浦寺跡の遺構は現地に入れば見ることができるが、今後屋根のいたみなどで遺構に障害が生ずれば直ちに元の状態に埋め戻すことが条件になっているようである。				
その他 (由緒など)	603年推古天皇が豊浦宮から小墾田宮に移った後に、豊浦寺を建立したとされている。近年の発掘調査で、寺院の遺構に先行する建物跡が見つかり、これを裏付けている。552年(欽明天皇13年)百済の聖明王が朝廷に献上した金銅の釈迦佛(日本初渡来の仏像)を蘇我稲目がたまり、向原の家を浄めて寺としたのが始まりで日本初の寺とされている。(豊浦寺跡解説より)				
コメント	向原寺住職夫妻が守り続けて頂いて守り続けて頂いているお陰でいつまでもこの様な見学ができることに感謝したい。もしかしたらこの敷石の上を当時の方々が往来したかと思うと身近に感じることができる。過去の遺構がそのままの状態を確認することはここ以外はないと思われる。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	2 月	4 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	豊浦寺跡(とゆらでらあと)
------	---------------

向原寺の山門



山門前に豊浦寺跡の説明板



出土遺構を覆う屋根・豊浦寺の礎石



出土した豊浦寺跡の敷石と柱跡



豊浦寺跡の出土品(瓦)



豊浦寺跡

